



2015 年度事業計画書

学校法人立教学院

<目次>

はじめに.....	3
立教学院本部事業計画.....	3
立教大学事業計画.....	5
立教新座中学校・高等学校事業計画.....	8
立教池袋中学校・高等学校事業計画.....	10
立教小学校事業計画.....	12
事業部事業計画.....	14

はじめに

立教学院理事長 神谷 昭男

学校法人立教学院は昨年(2014年)、学院創立140周年を迎えました。これもひとえに多くの皆様に御支援いただいた賜物であり、感謝申し上げます。

2014年度は、立教大学が文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援(グローバル化牽引型)」、新座中学校・高等学校が文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」アソシエイツ校に採択され、日本のグローバル化を牽引する私立学校として、重責を担うこととなりました。

ご存知のとおり私立学校を取り巻く経営環境は、経済状況や少子化による18歳人口の減少により、厳しさを増しております。その一方で、グローバル人材の育成や地域貢献事業など、社会から私たちに寄せられる期待は、ますます大きくなってきています。

このような状況であるからこそ、建学の精神を大切にしながら、社会に貢献できる人材を育成していくことが本学の果すべき使命だと考えております。今年、その使命を果たす取り組みをより充実させるとともに、持続的な発展を支える経営環境の強化に歩みだす1年と捉えております。

本事業計画書を通じて立教学院ならびに各校の諸活動について、皆様のご理解を深める一助になればと考えております。また、情報を積極的に公開することにより、本学の公共性や社会的責任を明確にしてゆく所存です。今後とも立教学院を支えてくださるすべての関係者の皆様からのさらなるご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

2015年度学院本部事業計画

I. 一貫連携教育の推進

1. 特色

立教学院全体を貫く共通の教育目標として、「テーマを持って真理を探究する力」「共に生きる力」を育むことを掲げ、一貫(連続)した教育体制の中で、自主・自律した人材、世界中の人々と協力・協働して未来を拓ける人材の育成を図っています。

特に、「グローバル人材の育成」という点では、「国際性」を創立時より教育・研究の柱に据えてきた大学を筆頭に、小学校、中学校、高校でも、語学教育、国際交流に早くから取り組むとともに、一貫連携教育による英語(外国語)教育の各校間の授業・カリキュラム研究や、大学による教育活動への支援等が積極的に行われてきました。それら一貫連携教育をもとにした各校の取り組みが、授業・行事等の充実につながり、大学の「スーパーグローバル大学創成支援」採択、新座中高の「スーパーグローバルハイスクールアソシエイツ」認定など、着実に実を結んでいます。

2015年度も、引き続き、以下の諸活動を充実させ、授業や課外活動に対する一貫連携教育の強化・充実を図っていきます。

- ・大学各学部による「高大連携特別授業」
- ・大学理学部による「実験体験講習会」
- ・大学観光学部による「実践型英語コミュニケーション演習」

II. 2015年度 主な施設整備計画

■新座キャンパス	
大学	室内練習場(大学雨天野球練習場) 野球場人工芝整備

III. 経営効率の向上

1. 教学計画と連動した経営戦略の策定

教学・研究活動のさらなる充実・発展のため、教学と経営が一体となった学校運営を目指し、本学の持つ経営資源の最適化を進めます。

2. 戦略的方針にもとづく安定した財政運営の実現

予算制度の見直し、支出内容の再構成、新たな資産運用方法の導入による財源の確保などによって、時機を得た有効な資金投入を可能とする財政運営を行います。

3. 人事政策・業務改善

(1) 職務遂行力評価制度の運用

目標管理制度および職務遂行力評価制度の精度をさらに高めつつ、採用や人事異動、研修を併せて人材育成に一層取り組みます。

(2) 国際化推進に対応した職員研修プログラムおよび海外研修の実施

あらゆる部局部署の職員が国際化に対応できるよう体制の整備を推進します。

IV. 新たな募金活動の展開

2014年度から「立教学院赤レンガ募金」を開始しました。学院各校、とりわけ大学では「グローバル化の推進」は大きな課題となります。そのための奨学金の充実や国際交流寮の拡大等の資金確保に向けて幅広く寄付のご協力をお願いしていく予定です。

V. その他

1. 立教学院広報活動

立教ブランドの向上を図るとともに、「スーパーグローバル大学創成支援」事業、および、創立150周年に向けた中期ビジョンに関する発信を中心に、広報活動を推進します。

2. 立教学院150年史編纂事業の推進

創立150周年となる2024年に向け、『通史』を中心とした「150年史」の編纂事業を継続して進めます。この他、『ウィリアムズ主教書簡集』編集、同主教遺品資料の整理・デジタル化と図録の編集を進めます。

3. その他諸活動

- ・危機管理体制の充実
- ・省エネルギーの推進

以上

2015年度 立教大学事業計画 はじめに

総長 吉岡 知哉

立教大学は、創立以来、「国際性」と「リベラルアーツ」を教育・研究の柱としています。創立 140 周年を迎えた昨年には、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」に採択され、伝統であるリベラルアーツ教育を基軸とする立教らしい国際化を推進するとともに、21 世紀の大学教育のモデルを示すという役割を引き受けることになりました。また、「リベラルアーツの現代的再構築」をめざした新たな学士課程カリキュラムを 2016 年度から展開すべく、準備を進めています。

現在、立教大学が進めている国際化とリベラルアーツの現代的再構築とは不可分であり、相互に関係しつつ変革の原動力ともなっています。「スーパーグローバル大学創成支援」プロジェクトの基礎には、新たな学士課程カリキュラムが据えられており、同プロジェクトにおける「カリキュラムの改革」の柱となるグローバル教養副専攻とグローバル・リベラルアーツプログラムは、この学士課程カリキュラムの考え方に支えられています。一方、新しい学士課程カリキュラムは、学問と大学教育をめぐる歴史的変化、その最大のものがグローバリゼーションですが、この変化に応えるための教育改革にはかかなりません。こうした「国際化」と「リベラルアーツ」の柱に基づく取り組みが、本学の教育・研究をより豊かで多様なものへと変革していくでしょう。

また、2014 年度には、本学の建学の精神を現代的に捉え直し未来に向けて力強いメッセージを発信する「RIKKYO VISION 2024(仮称)」の策定委員会を設置しました。そのもとに置かれた小委員会では、中堅・若手の教職員を中心に、創立 150 周年、そしてさらにその先を見据えた精力的な議論を続けています。

グローバリゼーションによる世界変動は激しさを増しています。しかしいかなる激動のなかにあっても、研究と教育とを通じて人間社会に貢献していくこと、そして目の前にいる学生一人ひとりの成長を支援することが大学の使命であることに変わりはありません。その使命を果たすべく、140 年の歴史と伝統を持つ「自由の学府」の未来への歩みを着実に進めてまいります。

I. 国際化

1. 国際化推進

2014 年 5 月に、2024 年までに本学が進める国際化戦略として「RIKKYO GLOBAL 24」を発表しました。また、2014 年 10 月には、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」に本学の構想が採択されました。これらの実現を図るため、国際化推進機構を設置し、そのもとの国際センター、グローバル教育センター、日本語教育センターが提供する様々なプログラムについて、その拡大と新規開発を進めます。

2. 英語による学位授与コースの設置

英語による専門科目の履修で学位が取得できるコースの設置を進めていきます。

3. 留学・海外プログラムの充実

単位認定を伴う短期留学プログラムの開発をさらに推進するとともに、海外との大学間および学部間協定校を増加させます。また、海外インターンシッププログラムの充実を進めます。

4. 留学生受け入れの促進

留学生の受け入れを今後 4 年間で倍増させるために、留学生向け科目の充実、キャンパスの国際化対応を進めます。また、受け入れ短期プログラムや留学生のための国内インターンシッププログラムを開発します。

5. 海外事務所の有効活用と海外広報

世界とつながる拠点として、現在 3 ヶ所ある海外事務所の有効活用と、さらなる増設を図ります。海外広報については、国際会議や留学フェアへの積極的な参加、英語版ホームページの充実を行います。

II. 教育

1. 学士課程統合カリキュラム

2016 年度からの新たな学士課程カリキュラムである「立教学士課程統合カリキュラム」の本格実施に向けて、具体的な作業を進めます。また、社会の現場での活動と、教室における学問的な教育との結合を目指す実践型教育プログラム「立教サービスラーニング」の全面的な導入に向けて整備を進めます。新たなカリキュラムの開始にあわせて、学修時間の確保や学びの振り返り等に効果的な e ポートフォリオシステムを導入します。

2. グローバル・リベラルアーツプログラム

本学の教育改革を先導するプログラムとして、英語による授業やきめ細やかなチュートリアル指導などを採り入れた「グローバル・リベラルアーツプログラム」の開発を進めます。

3. グローバル教養副専攻

全ての学生を対象とする「グローバル教養副専攻」の 2016 年度からの導入に向けて、副専攻制度の検討を進めていきます。

III. 入試

1. 入試制度

英語資格・検定試験を活用した新たな入試制度として、一般入試「グローバル方式」を全学部日程で実施します。

2. 入試広報

一般入試「グローバル方式」を周知するとともに、国際化に向けた取り組みを発信するため、「Rikkyo Global Open Campus(仮称)」を実施します。2016 年度に導入する新たな学士課程カリキュラムについて、高校生や高校教員等への情報発信を進めます。

IV. 学生支援・キャリア支援・就職支援

1. 奨学金制度の再編成

奨学金制度等の総合的見直しを行い、国際化推進を目的としたものを含め、新たな奨学金制度の枠組みづくりを進めます。

2. しょうがい学生の支援

「立教大学しょうがい学生支援方針」に沿って、支援体制や施設・設備の整備、情報発信、調査・情報の活用、ネットワーク形成を進めるほか、発達しょうがい学生支援を開始し、「障害者差別解消法」施行(2016年4月)に向けて、しょうがい学生支援の対応指針を作成します。

3. キャリア支援および就職支援

就職活動時期変更に関する情報収集を進め、的確なキャリア支援を行います。また、学部ごとに配置しているキャリア支援をサポートする専門員を活用し、きめ細かな支援を拡充します。

V. 研究推進

1. 組織的研究の促進

立教大学学術推進特別重点資金(立教 SFR)により組織的研究に支援を行い、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」等の各種外部資金への申請を促進します。

2. 萌芽的組織研究の支援

複数の本学教員が、大学院生や他大学・他研究機関と共同で行っている研究活動の可視化と、大学としての支援体制を整えます。また、本学教員の多彩な研究活動を発信するため、本学ホームページの研究者情報を充実させます。

3. 学位取得後の継続的な若手研究者支援

本学大学院で博士学位(課程博士)を取得した研究者に対し、研究を継続できるための制度を整備します。

VI. 社会連携活動・教育、校友との連携

1. 社会連携活動・教育の強化

これまでの豊島区および新座市との連携による文化・生涯学習関連プログラムに加え、国際化を意識した地域・企業との連携関係を構築していきます。

2. 校友との連携の一層の強化

学部等を中心とする卒業生ネットワーク形成に向けた取り組みや、帰国した留学生が人的交流を維持・発展させるための仕組みづくりを進めます。

3. 東日本大震災復興支援活動

現地の状況の変化やニーズに対応した支援活動を引き続き展開していきます。

VII. 財政基盤の構築と組織体制の強化

1. 中期財政見通しを踏まえた財政基盤の構築

国際化をはじめとする教育・研究活動の持続的な発展を支えるため、中期財政見通しに基づく強固な財政基盤を構築します。

2. 組織体制の強化

財政基盤構築の議論とも連携を図りながら、事務組織体制の強化に向けた総合的見直しに着手します。また、2015年4月に施行される学校教育法の改正に対応するため、本学学則の一部を改正します。

以上

立教新座中学校・高等学校事業計画

I. 事業計画にあたって

校長 村上 和夫

本校の教育理念は、キリスト教における、愛と正義にあふれた、高い品格を有したヒューマニズム精神を有した人材の育成にあります。

「共に生きる」共生の精神こそ我々が常に志向してきた伝統です。地球規模で、環境との調和をはかり、異文化の多様な価値観を相互に理解しながら共生の道を歩みたいと考えています。

また、キリスト教精神の中でも我々が伝統的に培ってきたものは、自由の精神です。いかなる歴史状況においても、それを支える自主・自立・責任に裏づけされた精神によって、自由が確立されると考えています。それは、まさに聖書が語る。「真理は我らを自由にする」という言葉の実践であると考えます。

自由の理念を遂行するための人材育成こそわれわれの使命です。

公正な判断力を持った、人間味豊かな、すべての人に暖かい手を積極的に差し伸べることのできるリーダーがその役割を担います。それは、いわゆる強権的な人材としてのリーダーではありません。相手の気持ちをよく理解できる、相互に信頼関係を築くことによって新たに進むべき道を積極的に提示できる人材です。

殊に本年は、従前にも行われてきた大学との一貫連携教育の関係をいっそう具体的に強化して進めて行きたいと考えています。

昨年、本校はスーパーグローバルハイスクールアソシエイトに認定されました。また、立教大学は、スーパーグローバル大学指定校となりました。国際社会に貢献できる人材育成を推進し、コミュニケーション能力の陶冶に努め、言語の習得のみならず、基盤となる文化土壌の相互理解をグローバル教育の場で実践していきます。

本校は、一人一人の個性を重んじ、勉学・文化活動・スポーツ活動においても、高い評価を得てまいりました。その評価を前提にグローバル教育においても、先進的な役割を担っていきます。

2015 年度は、輝かしい伝統に甘んじることなく、自己の教育体制を厳しく検証し、立教学院として取り組む一貫連携教育のもと先進的な歩みを続けたいと考えています。

II. 教育改革への取り組み

これまで培って来た教育活動をさらに発展・深化させていきます。教職員の研修と自己点検の奨励も継続し、教育力を向上します。

1. 一貫連携教育の充実

立教大学との協力により、高度な学習活動を生徒たちに提供します。このことは、彼らの知的好奇心を刺激し、課題を発見する能力、研究・調査の方法を発信する能力を育成します。

2. ことばを用いる能力の育成

表現を学ぶ授業や自由研究、論文作成やプレゼンテーションなどにおいて、様々な場面に応じた言葉を的確に用いる能力を育成していきます。

3. 情報教育の充実

社会の役に立つ情報を発信し、氾濫する情報の中から必要な情報をどう選ぶなど情報を扱う能力を育成します。

4. リーダーシップの育成

どんな立場からも集団をよりよくするために自ら行動する力を、様々な機会を利用して育成します。

5. 国際的な感覚の育成

さまざまな文化的・自然的事象を肌で理解するための海外研修旅行、9ヶ国語の授業、留学生と交流など、国際的な感覚を育成する環境を整えます。

III. 2015年度の事業計画

1. 教育プログラムの整備・充実

- (1) スーパーグローバルハイスクールの申請をします。
- (2) 課題解決能力やリーダーシップの育成における立教大学との連携を図ります。
- (3) 留学に関する情報を提供するラウンジを設置します。
- (4) 大学グローバルラウンジとの連携で、高校生がラウンジを訪問したり、留学生が新座中高を訪問したりする機会を設けます。
- (5) 2月初旬から3月初旬にかけて行われる集中的な語学研修を充実させます。

2. 教育・研究環境の整備

セントポールズ・アクアティックセンター(2015年4月利用開始)

年間を通して、正課体育での水泳、正課外体育での水泳競技を展開します。

以上

立教池袋中学校・高等学校事業計画書

I. 事業計画にあたって

校長 鈴木 弘

立教池袋中学校・高等学校では、キリスト教に基づく人格の形成を目的とする人間教育を理念とし、神を愛し、神の前に謙虚で感謝を持って生きられる人間の育成を目指しています。そのために立教学院一貫連携教育構想で定めた立教学院各学校共通の次のふたつの教育目標を掲げています。

1) テーマを持って真理を探究する力を育てる

神から与えられた力を自ら発見し、これを伸ばしてより広い視野のもとに判断する力を養い、強い意志をもって探究する人間の育成を目指します。

2) 共に生きる力を育てる

神に愛されている人間として、互いに理解し合い、自己本位でなく、共に助け合って、広く国際社会にも目を向け、共同生活を豊かにすることができる人間の育成を目指します。

さらに、これらに加え「豊かでの確かな日本語」と「生きた英語」の習得を目指した教育を推し進めます。また、進んで心身を鍛え、すべてのいのちと環境を大切にすることができる豊かな感受性を持つ人間の育成を目指します。

このような教育目標の実現のため、本校では中高6年制の利点を生かした次のような教育改革を進めてまいりました。

1) 英語教育の特化を初めとして各教科指導の充実を図るため、中学校、高等学校ともに「週6日制」を実施し、増加した時間数を生かした本校独自の新たなカリキュラムによる授業を実現しています。

2) 少人数教育を実現するための教育施設(新教室棟と新体育館)を完成し 2014 年度より全学年 4 クラス制を導入しました。

新しい教育環境を最大限に活用し、本年度も本校の使命を反映した立教らしい特色ある教育展開と環境整備に、さらに鋭意努力を重ねてまいります。

II. 教育改革の取り組み

1. 本校独自の新たなカリキュラム

英語教育の特化、少人数クラスの授業を実現します。

2. ICTプロジェクト

教育方法や環境のICT化を計画的に推進する核としての役割を担います。

3. 立教英国学院との教育連携プロジェクト

国際バカロレア(以下、IBとする)導入、高等部留学生派遣、共同教育プログラムなどの連携を強化します。

4. 性教育プロジェクト

「性」を生理的、社会的、心理的側面から捉え、「性」に対する正しい視点を持つ青少年を育成します。

Ⅲ. 2015年度の事業計画

1. 教育プログラムの整備・充実

- (1) 新カリキュラムによる授業を高等学校全学年で実施します。
- (2) グローバル教育及びそれに関連するプロジェクトを継続します。
- (3) ICT教育導入に向けた教育の研究・研修や、環境整備を計画的に行います。
- (4) IBの導入に関連した研究・研修をさらに進めます。
- (5) 特別聴講制度の充実等、高大一貫連携のより一層の充実を図ります。
- (6) 性教育プロジェクトを継続します。
- (7) 生徒が留学しやすい環境作りのための研究・研修をさらに進めます。
- (8) 「立教英国学院高等部への留学制度」をスタートします。
- (9) 「生きることの意味を考える」、「いのちを守る」などいのちの教育を展開します。
- (10) 高等学校におけるキャリア教育を学院高大連携セクションと共同で企画・推進します。
- (11) 新たに完成したスクール・カウンセラー室の専属スクール・カウンセラーにより、教員と連携し、教育相談体制の充実を図ります。
- (12) 学内外での研究・公開授業を継続します。

2. 教育研究環境の整備

- (1) 地学実験室の改修工事を行います。
- (2) 新施設の有効活用ならびに、安全性の検証等を継続的に実施します。
- (3) 学内ネットワークの管理・維持を進めます。
- (4) ICT機器活用教室を1教室設置します。
- (5) センテナルホール天井の耐震補強工事を行います。
- (6) キャンパスの緑化(植栽等)を計画的に実施します。
- (7) 資金留保に努めるとともに募金活動を積極的に推進していきます。

以 上

立教小学校事業計画書

I. 事業計画にあたって

校長 佐々木 正

本校では、キリスト教信仰に基づく人間教育を目標に、お祈り・礼拝・聖書の授業を通して神様に喜ばれる子どもたちを育成しています。教育目標は具体的に 4 つの目標を掲げています。

- 1 友だちのよいところがわかる子ども
- 2 自分のよいところを表現できる子ども
- 3 広い視野でものを見られる子ども
- 4 すべてに感謝できる子ども

以上の目標の具現化が立教学院一貫連携教育のねらいである、「テーマをもって真理を探究する力」、「共に生きる力」の基礎を育むこととなります。小学校の 6 年間だけではなく、大学までの 16 年間を通して一人ひとりに与えられた神様からの賜物を引き出し、伸ばす人間教育を目的としています。

そのために、全ての子どもたちにとって「居心地のよい、安心できるクラス作り」を全校あげて推進しています。言葉遣いや友達のこと、自分のこと、そして学校全体を考える時間をとり、よりよい学校生活が送れるよう全校あげて取り組んでいます。

子どもたちや保護者の心のケアにも力を注ぎ、キリスト教精神のもと、サポートシステムを作り、チャプレン・教頭・教務主任が担任と連携を図り、子どもたちや保護者の悩みに対応しています。さらに、第三者の立場としてスクール・カウンセラーを配置して、気兼ねなく相談を受けられるよう環境を整えています。

東日本大震災から4年が経過しましたが、まだまだ支援を必要とする学校や施設が多くあります。2011 年度から続けている被災地の小学校・幼稚園への支援をこれからも子どもたちと一緒に継続していきます。

教育活動においては、本年度も海外ホームステイプログラム、スキー教室を実施するとともに、朝読書の充実、自学学習教室の積極的な活用を子どもたちに促していきます。

II. 教育改革の取り組みについて

1. 本校の教育目標を実現するために授業改善、指導方法の刷新、新校舎建設準備など、継続性のある教育改革を進めます。
2. 家庭での勉強方法、個別指導や学力強化週間を充実させます。一人ひとりの基礎学習力向上と学習習慣の定着化に引き続き取り組みます。

Ⅲ. 2015年度の事業計画

1. 教育プログラムの整備・充実

全体目標「一人ひとりの子どもが生きる教育を考える」

- (1) お祈り(朝礼・昼食・終礼)・チャペル礼拝・聖書授業などの実践を通して信仰心のある子どもを育てます。
- (2) 体験学習(作物の育成や収穫)の充実・縦割り教育・聖劇・学習発表会などへの取り組みをさらに強化します。
- (3) 教員の教育力向上に向けて、各種研修会への参加を奨励、教科部会での研究、公開授業と授業研究、立教大学教育学科および外部大学教授と立教小学校教員の共同研究の会を継続して実施します。
- (4) ラーニングサポートシステム(学生による授業補助体制)を継続して実施します。
- (5) ゲストスピーカーによる授業や講演を継続して実施します。
- (6) 年間行事(キャンプ、グローバルエクスカージョン、関西方面を中心とするフィールドワーク、学習発表会、聖劇など)については、さらに充実した活動にします。
- (7) iPad-mini を用いた、インターネットの活用法や情報モラル学習を実施します。

2. 教育・研究環境の整備

- (1) 児童の安心・安全のために、計画的な施設整備・修繕を行います。

<2015年度の主な計画>

- ①講堂天井耐震補強第二期工事
- ②外壁耐震補強第二期工事
- ③みすず山荘耐震補強工事

- (2) 最新式コンピュータシステムの構想・構築をしていくための設備を整備します。
- (3) 将来の新校舎建設のために建築資金の計画的な積み増しを継続します。

以上

2015年度立教学院事業部事業計画

I. 基本方針

立教学院事業部は、立教学院の収益事業を推進し、学生・生徒・児童・勤務員の福利厚生を増進を図ることを目的とし、本事業により得られた収益はすべて立教学院に還元します。

II. 目標

営業目標・売上目標ならびに当期利益予算の達成を目指します。

オンライン・ショップおよびセントポールプラザ・サイトによる新たな事業展開を図るとともに、中期的な事業継続のためのインフラ整備・拡充に取り組みます。

III. 2015年度の事業計画

1. 学校内諸施設の有料貸与

新規団体などへ積極的なアプローチをし、稼働率の向上に努めます。

2. 立教キャリアアップセミナー運営

2015年度は「語学」「資格取得」「就活支援」の各講座を中心に31講座53コースを開講する予定です。

3. セントポールプラザ(売店)運営

立教オリジナルグッズの企画・開発に取り組み、より一層お客さまのニーズを捉えた事業展開を図ってまいります。

4. 自動販売機管理・運営

取扱商品・設置場所・台数等の充実により利便性向上に努めるとともに設置条件の見直し等による収益向上を図ります。

5. 新たな販売チャネルの育成

セントポール・プラザサイト(事業部 HP)を活用した学内外の販路拡大に取り組みます。

6. その他事業

立教カード事業においては加入者拡大、不動産賃貸業・管理業においては安定した収益確保、立教カレンダー事業の推進に取り組みます。

7. 事業インフラの整備・拡充

セントポールプラザ外壁改修や業務インフラの強化等を計画しております。

以上